

報道関係者各位

ご案内

「with コロナ時代の妊活中の不安に関するアンケート」結果
「不妊・不育治療は不要不急ではない！年齢のリミットがある」
コロナ感染の対策をしながら治療を継続したい

不妊治療患者をはじめ不妊・不育で悩む人をサポートするセルフサポートグループ「NPO 法人 Fine (ファイン)」は、このたび「with コロナ時代の妊活中の不安に関するアンケート」を実施しました。599 人の回答から、不妊・不育治療患者が、新型コロナウイルス(以下、コロナ)に感染することへの不安を持ちつつも、治療を継続したいと考えていることがわかりました。

コロナの感染が国内で広がっている状況を受け、2020年4月1日には日本生殖医学会(*1)から会員の医師へ向けて「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する日本生殖医学会からの声明」(*2)が出され、治療薬が開発されるまでの間、不妊治療の延期を選択肢として患者へ提示するよう推奨されました。アンケートに寄せられたその時の当事者の気持ちは、「女性には妊娠・出産のタイムリミットがあるのに簡単に延長と言わないでほしい」「年齢的に時間がなく、焦り、困った」という年齢に関するものが多く見られました。「適切な判断だと感じた」「仕方がないと思った」という意見がある一方で、「なぜ不妊治療だけが延期の対象になるのか」「自然妊娠はよくて、なぜ不妊治療だけ？」といった意見もありました。

「コロナリスクか年齢リスクか」と悩み、「不妊・不育治療は時間との戦い、それを延期することの重大さをもっとわかかって欲しい」という不妊・不育治療患者の切実な声とともに、本調査の結果をぜひ貴媒体にて取り上げていただき、広く社会への周知を図っていただけますようお願い申し上げます。

(*1) 一般社団法人 日本生殖医学会

<http://www.jsrm.or.jp/index.html>

(*2) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する日本生殖医学会からの声明(2020年4月1日版)

<http://www.jsrm.or.jp/announce/187.pdf>

調査結果サマリー

< 1 > 「不妊治療の延期」の検討を促す声明には、不安のみならず、悲しみや怒りを感じた。

4月に日本生殖医学会から「不妊治療の延期」の検討を促す声明が出された時、「不安になった」人が最も多く、「不妊治療が不要不急と考えられている」「不妊治療だけ延期するのはおかしい」「自分にとっては大切な不妊治療なのに」という悲しみや怒りも感じています(表1、表2参照)。

< 2 > 「緊急事態宣言」が初めて出された時、それでも治療を続けたいと思った。

「緊急事態宣言」が初めて出された時、治療を受けることや、そのために通院することに対して感じたことは、「それでも治療を続けたいと思った」人が「治療を延期しようと思った」人を上回っています。これを年齢別にみると、30代では治療を延期しようと思った人の方がやや多く、40代では治療を継続したいと思った人の方が断然多くなっています(表3、表4参照)。

< 3 > 「緊急事態宣言」の発令中、年齢が上がることへの焦りを感じた。

「緊急事態宣言」発令中、不妊治療を受けることや、そのために通院することに対して感じた不安や心配は、「自分が感染することへの不安」「年齢が上がることへの焦り」「感染した際の胎児への影響が心配」でした(表6参照)。

< 4 > 「緊急事態宣言」が解除された時、第2波が来る前に早く治療をしたいと思った。

緊急事態宣言が解除された時に感じたことは、「第2波が来る前に早く治療をしたい」「また治療が再開できるようになって良かった」など、治療に前向きな回答が多かったのですが、その一方で「クリニックの混雑が心配」という声もあり、コロナ感染を心配する気持ちがうかがえます（表7参照）。

調査概要

- ・ 調査目的：
新型コロナウイルス感染拡大の第2波、第3波も心配される状況の中で、妊活中の不安な気持ちやクリニックの対応などを把握し、どのようなサポートが必要かを探り、患者一人ひとりが納得のいく治療を受けられるよう、治療環境の向上を図るため。
- ・ 調査期間：2020年7月2日～7月31日
- ・ 調査方法：外部調査 ASP を使用した WEB アンケート。自由回答を含む30問
- ・ 対象者：不妊治療・不育治療を受けているすべての方、およびこれから受ける方
- ・ 回答数：599

調査結果

< 1 > 「不妊治療の延期」の検討を促す声明には、不安のみならず、悲しみ、驚き、怒りを感じた。

4月に日本生殖医学会から「不妊治療の延期」の検討を促す声明が出された時、当事者が感じたことは「不安になった」58%、「悲しくなった」26%、「驚いた」13%「怒りを感じた」12%でした（複数選択）（表1参照）。

その不安・悲しみ・怒りの内容は「いつまで延期になるのか先が見えない」「治療が先延ばしになる」「今後、不妊治療ができなくなるのでは」という不安や、「不妊治療が不要不急と考えられている」「不妊治療だけ延期するのは納得できない」「自分にとっては大切な不妊治療なのに」という悲しみ、驚き、怒りです（表2参照）。

その他の自由記述欄には、「年齢的にも先延ばしにしたくない」（30代女性）、「年齢的に時間がないのにどうすればいいのかと悩んだ」（40代女性）というような年齢に対するコメントが多くありました。

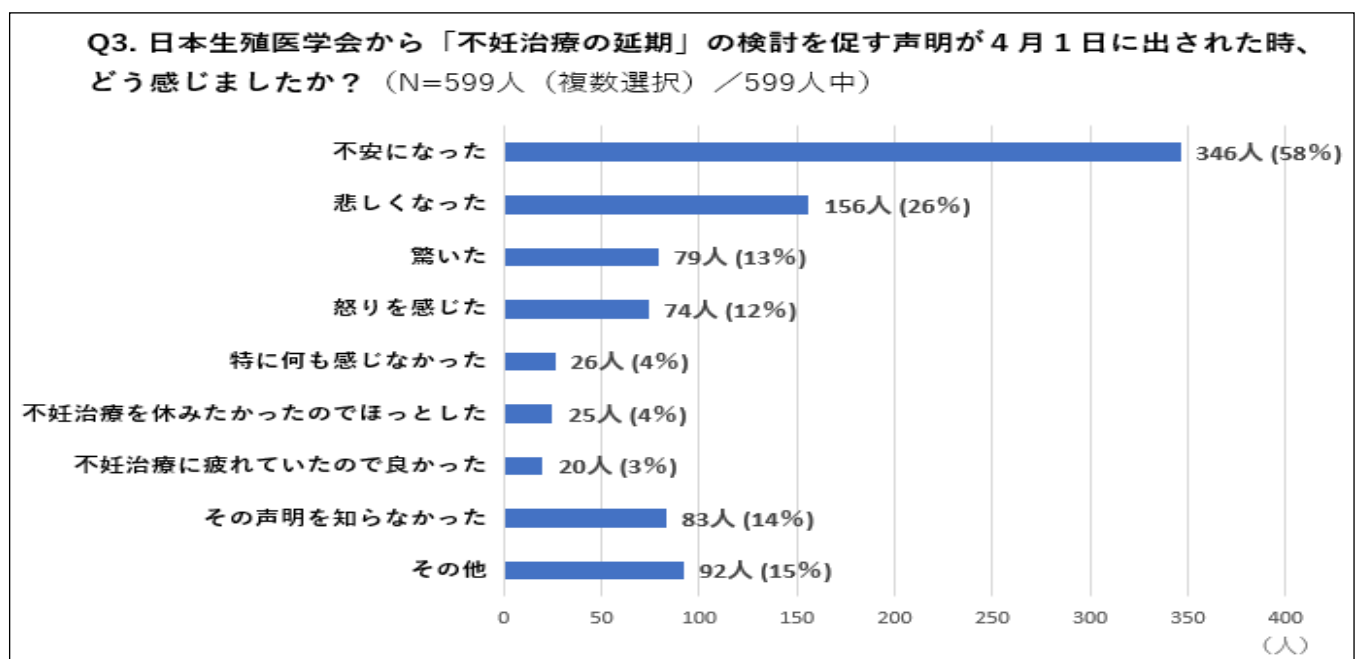


表 1

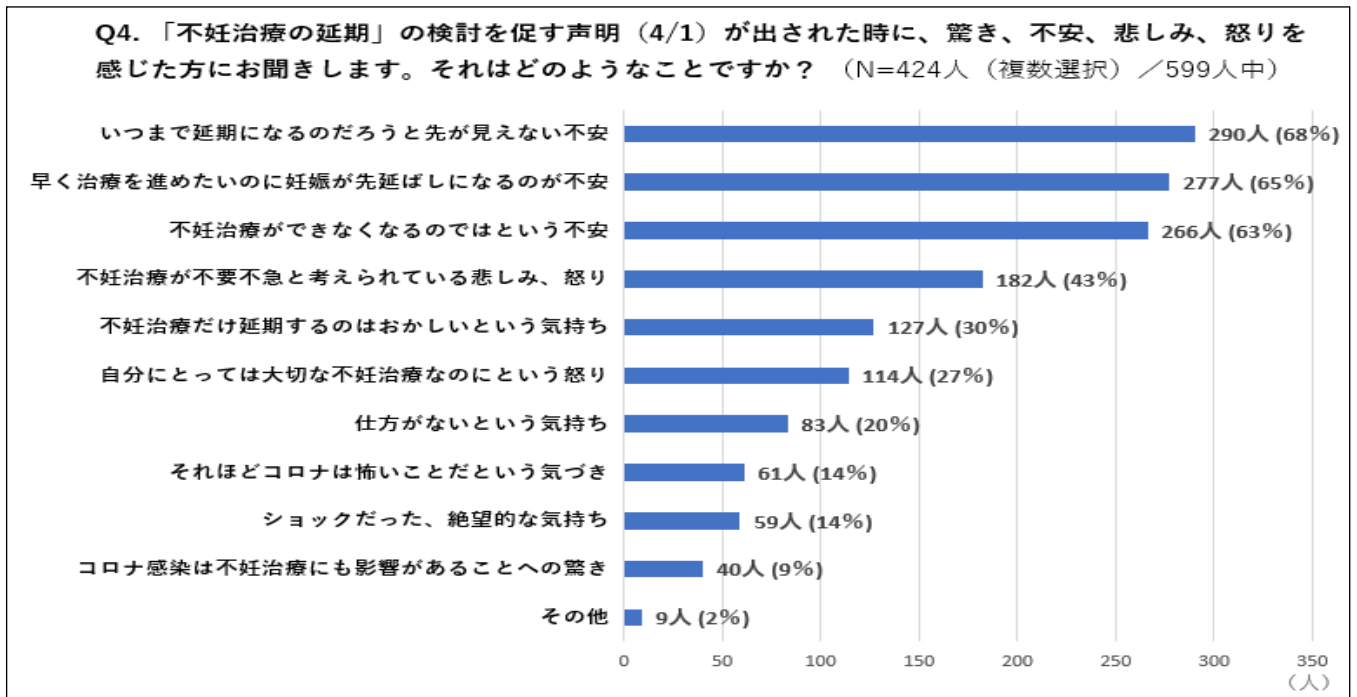


表 2

< 2 > 「緊急事態宣言」が初めて出された時、それでも治療を続けたいと思った。

「緊急事態宣言」が初めて出された時、治療を受けることや、そのために通院することに対して、「不安になった」と感じた人が 38%と最も多く、次に多かったのは「それでも治療を続けたいと思った」（32%）で、「治療を延期しようと思った」（29%）を上回りました（複数選択）（表 3 参照）。

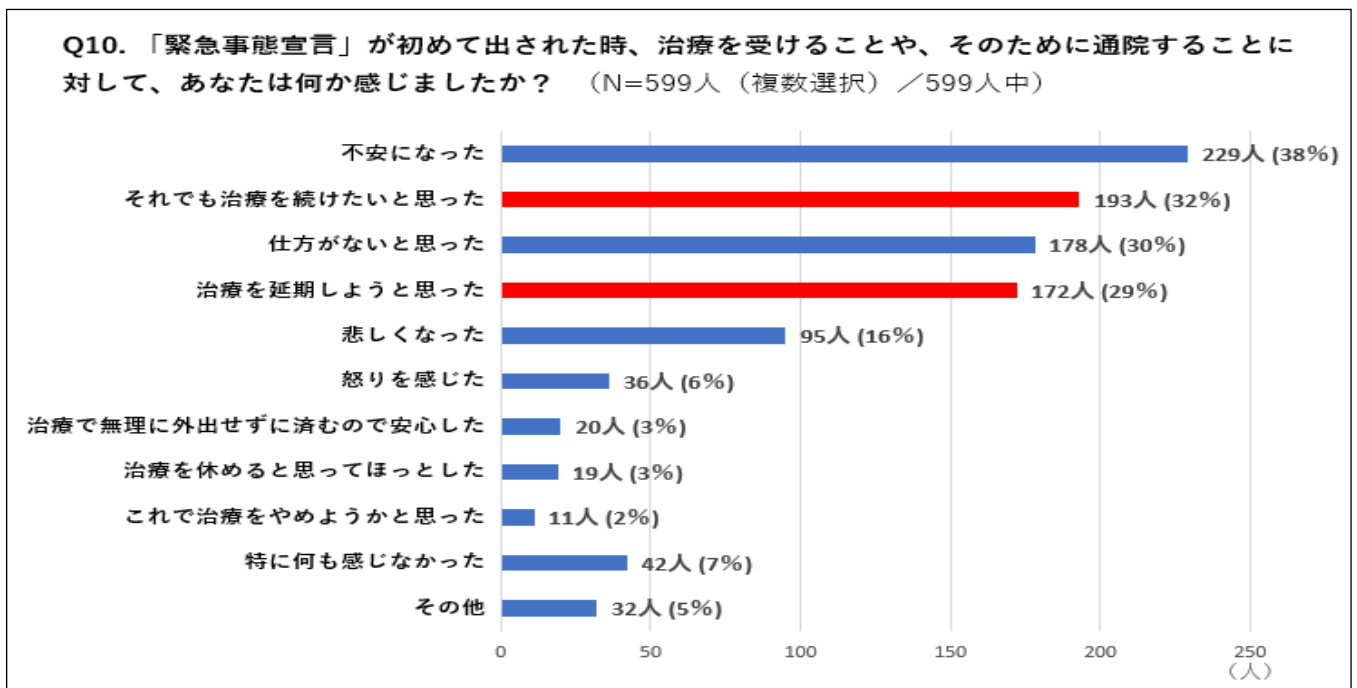


表 3

「治療を続けたい人」と「治療を延期したい人」について、年齢別に見ると、30～34 歳では治療の継続よりも治療の延期のほうが多く、35～39 歳ではその差が縮まり、40～44 歳では逆転して、延期より継続のほうが多くなります。45～49 歳では、その差がさらに大きくなり、継続は延期の 2 倍以上になっていることがわかります（複数選択）（表 4 参照）。

また、治療の段階別に「治療を続けたい人」と「治療を延期したい人」を見ると、タイミング法や人工授精

をしている人は治療の継続より治療の延期のほうが多く、体外受精や顕微授精、不育治療の人は延期より継続のほうが多くなりました(表5参照)。

年齢が上がるほど、また治療のステップが進むほど、治療の継続を望む人が多いことがわかります。

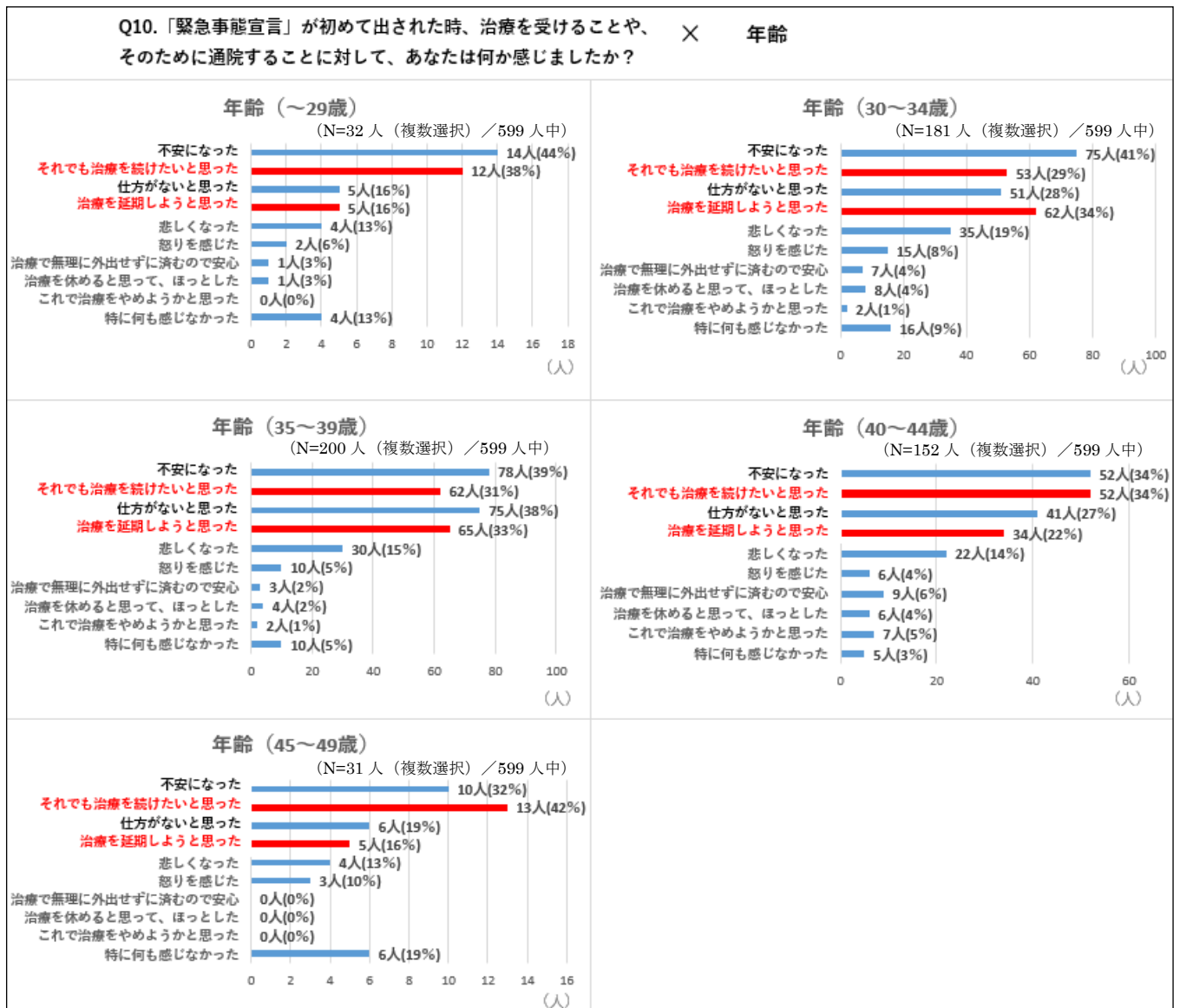


表 4

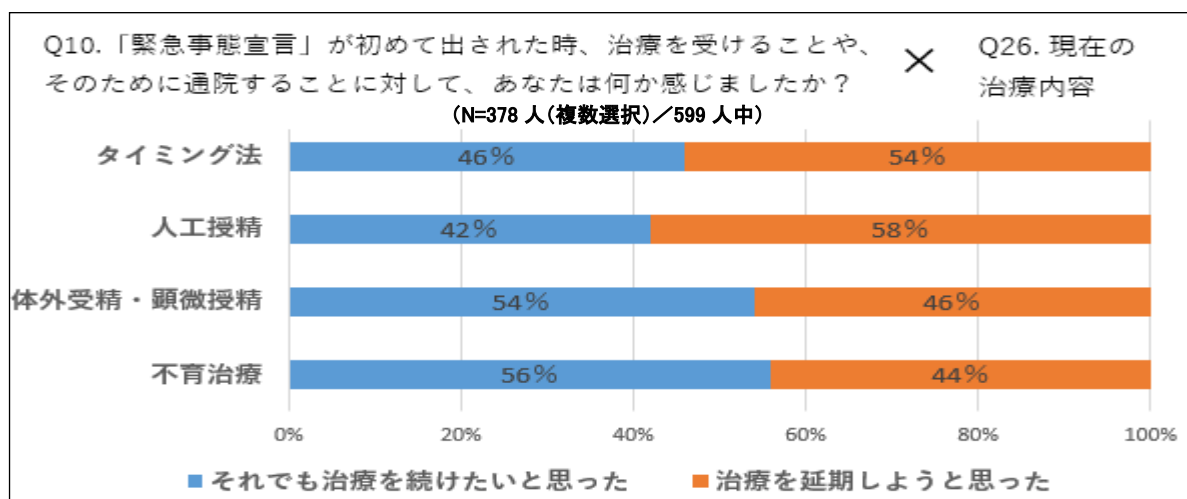


表 5

< 3 > 「緊急事態宣言」の発令中、年齢が上がることへの焦りを感じた。

Q12 で、「緊急事態宣言」の発令中、不妊治療を受けることや、そのために通院することに対して、どのように感じたかを聞いたところ、不安や心配を感じたと答えた人は 83% でした。

その不安や心配の理由は、「自分が感染することへの不安」(70%)、「年齢が上がることへの焦り」(69%)、「感染した際の胎児への影響が心配」(55%) でした(複数選択)(表 6 参照)。

その他の自由記述欄には、「みんな自粛しているのに外出して治療を受けることに罪悪感や申し訳なさがあった」(40 代女性)「緊急事態宣言中は通院しなかった」(30 代女性)というコメントがありました。

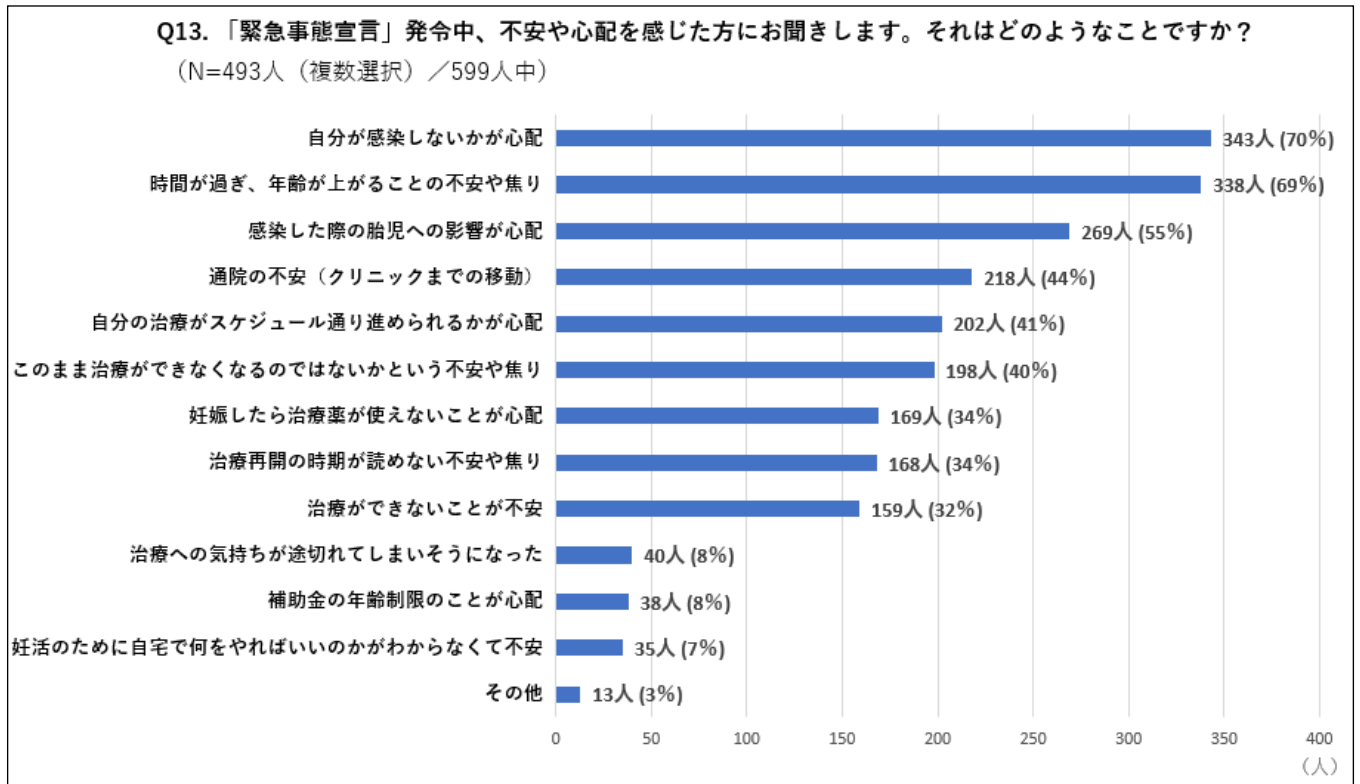


表 6

< 4 > 「緊急事態宣言」が解除された時、第 2 波が来る前に早く治療をしたいと思った。

緊急事態宣言が解除された時に感じたことでは、「第 2 波が来る前に早く治療をしたい」(38%)、「また治療が再開できるようになって良かった」(37%) など、治療再開に前向きな回答が多く見られますが、その一方で、「クリニックの混雑が心配」という治療再開に躊躇する回答も 28% 見られます(複数選択)(表 7 参照)。

その他の自由記述欄には「解除されても通院することに不安があり、通院を再開できない」(40 代女性)「治療を延期しなかったのも、特に問題はなかった」(30 代女性)「今開始するのは不安だが、年齢的に先延ばしにできないと判断し、致し方なく開始した」(40 代女性)というコメントがありました。

5 月 18 日に日本生殖医学会からの治療再開検討の通知が出されています(*3)。Q24 では、感染拡大の第 2 波、第 3 波が来たらどうしたいかを聞いていますが、一番多かったのは「治療を予定どおり継続したい」で 67% でした。

(*3) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する日本生殖医学会からの通知 (2020 年 5 月 18 日版)

<http://www.jsrm.or.jp/announce/195.pdf>

Q16.「緊急事態宣言」が解除された時、不妊治療を受けることや、そのために通院することに対して、どのように感じましたか？ (N=599人 (複数選択) / 599人中)

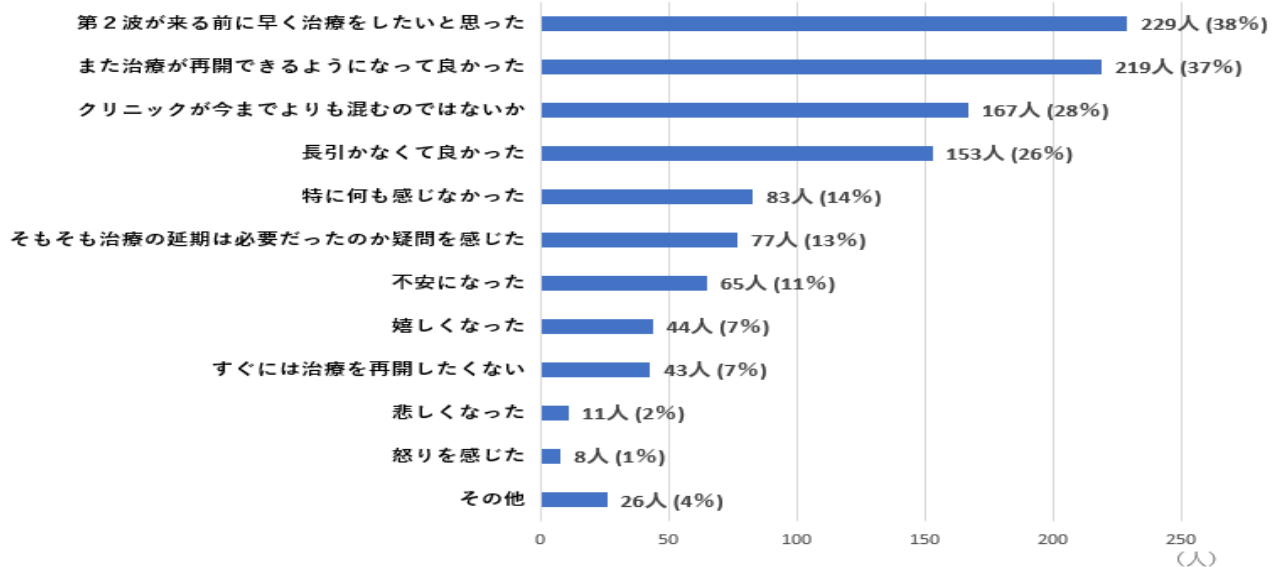


表 7

おわりに

本アンケート調査の結果より、不妊・不育治療患者は、声明発表時、緊急事態宣言の発令時と解除時、そして感染拡大の第2波、第3波に向けてもずっと変わらず、新型コロナウイルス感染への不安がありつつも、「コロナ感染は怖い年齢のことがあるので休めない」「コロナ感染は不安だが子どもがほしい気持ちは変わらないので、感染予防をしながら治療を続けたい」といった妊娠を望んでいる人が多いことがわかりました。

不妊・不育治療は、4つの負担（身体的、経済的、精神的、時間的）がありますが、今回の新型コロナウイルスの流行で、さらに感染リスクに関する不安、悩みや迷いの負担が増えました。日本生殖医学会の声明や緊急事態宣言が発表された時は、不安とともに、「予定していた治療ができない」「いつ治療を再開できるかわからない」など、戸惑う声が聞かれました。妊娠や出産には適齢期・年齢的なタイムリミットがあるため、特に年齢的に余裕がない人にとっては時間のロスはとても苦しいものです。治療の再開を待つ間にも年齢を重ねてしまう焦りや、再開時期がつかめないことは大きなストレスになります。また治療費の助成について厚生労働省が年齢上限を令和2年度に限って緩和すると発表(*4)しましたが、「新型コロナウイルスの影響で収入が減って経済的な問題で治療をあきらめる」という声も見られました。

with コロナ時代の今、不妊・不育治療患者が、感染防止の対策をしながら治療を継続できるよう「不妊・不育治療は不要不急ではない、妊娠・出産には年齢のリミットがある」ことを広く社会に理解していただき、治療を続けることが非難されない社会になることを私たちは希望します。

(*4) 厚生労働省 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う不妊治療助成における対応
<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000622741.pdf>

おわりに、本アンケートの自由記述欄に書かれたコメントを紹介します。

◆妊活について

- 不安です。これからどうなるのか、治療を続けることで周りから何か言われないうか。治療をやめることにならないか。(30代女性)
- 子どもは欲しいが、そのためにリスクを負って外出してもいいのか葛藤しているのが正直なところ。でも、

年齢的にも今通わないと後悔するので通っている。(30代女性)

- 主人は治療に賛成してはいるが、士気は下がっている。クリニックへの立ち合いもできなくなった。(40代女性)
- 妊娠前、妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合の母体、胎児への影響。治療で服用する医薬品の身体への影響など、いろいろな情報がほしいです。(30代女性)
- コロナ感染の不安があったが、年齢は戻せないで治療を中断しようという思いにはなりません。これから子どもを授かってコロナと共に生活していくことへの不安も出て来るかもしれないが、授かる喜びのほうが上回ると思い継続しました。(30代女性)

◆社会への要望

- こんなときに妊活…なんて思わないでほしい。こっちには時間がない。切羽詰まっているんだ。(40代女性)
- もっと妊活をしている人の切実な想いを知ってほしい。妊娠は今しかないという気持ちへの理解と、妊婦や高齢者にうつつさない努力を社会全体で取り組んでほしい。(30代女性)
- 妊婦だけではなく、不妊治療をしている人にも、同等の配慮をお願いしたい。(30代女性)
- コロナで年収が下がるため、不妊治療の助成金は年収の上限をつけないでほしい。(30代女性)

◆医療機関・通院先について

- コロナ感染の予防対策をしっかりして、治療は続けてほしい。通院する人も対策を。(30代女性)
- 待ち時間が長いので、予約の分散などで安心して過ごせる環境作りをお願いします。(40代女性)
- 治療を再開したいと相談すると、学会の方針について説明があり、必ずしも治療しないということでもないから、ご主人ともよく相談して、自分自身の体づくりを継続していてと言われた。(40代女性)

◆仕事との両立について

- 在宅勤務でフレキシブルな働き方ができるようになったことは、不妊治療と仕事の両立においてもプラスなので、コロナが落ち着いた後も定着してほしい。(30代女性)
- 企業は緊急事態宣言解除後、出社を求めるところも増えてきている。国は妊娠中の女性への配慮を企業へ呼びかけたが、不妊治療中の女性への配慮も呼びかけてほしい。(30代女性)

【不妊治療の現状】

日本で不妊を心配したことがあるカップルは3組に1組、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある(または現在受けている)カップルは5.5組に1組といわれています(*5)。日本で体外受精や顕微授精などの生殖補助医療(ART)によって生まれた子どもは、2017年は56,617人(*6)を数え、その年の出生児全体の約16.7人に1人がARTにより誕生したことになります(*7)。さらに累積では約60万人がARTで誕生しています(*6)

(*5) 国立社会保障人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」(2015年6月)

http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/NFS15_report4.pdf

(*6) 生殖補助医療による出生児数(2017年累計出生児数)は『日本産科婦人科学会雑誌第71巻第11号』より引用。

<http://fa.kyorin.co.jp/jsog/readPDF.php?file=71/11/071112509.pdf>

(*7) 2017年(平成29年)の出生数は、「人口動態統計」(厚生労働省)による。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei17/index.html>

~Fine 会員は約 2,400 名 Fine SNS 会員は約 1,950 名 (2020 年 8 月現在)~

NPO 法人 Fine (ファイン) <https://j-fine.jp/>
〒135-0042 東京都江東区木場 6-11-5-201 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606
* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです
E-mail ◆ NPO 法人 Fine 広報窓口 : finekouhou@j-fine.jp